

大学入学共通テスト について

代々木ゼミナール講師 宮路秀作



① 共通テストについて

大学入学共通テストは、大学進学を志願する者の高等学校段階での基礎的な学習到達度を判定することを主たる目的としている。各大学がそれぞれの判断と創意工夫に基づき、適切に用いることにより、「大学教育を受けるに相応しい能力」、「意欲」、「適性」などを多面的・総合的に評価・判定するものである。大学入試センター試験の流れをくみ、2017年、2018年の2度の試行調査を経て、2021年度より実施された。

② 共通テストの出題傾向

今回は、初めての共通テストの実施であり、2017年と2018年に実施された試行調査を踏まえた出題傾向となった。大問数は5、小問数は32であった。試行調査と比較すると、2017年実施が大問数5(小問数30)、2018年実施は大問数5(小問数32)であったため、ほぼこれを踏襲した出題数となった。

センター試験は大問数6、小問数は35であったため、問題数を減らし、その分、1問あたりの解答に費やす時間を増やしたと考えられる。これは、より深い読解を要求する問題が増えたことを意味している。実際に出題された問題はリード文が多く、限られた時間内で的確に読みこなし、解答のために必要な情報を判断することが求められる性格へと変わった。2017年実施の試行調査は、「答えをすべて選ぶ問題」や「8択問題」などが出題されていた。2018年実施の試行調査では「答えをすべて選ぶ問題」はなくなっていたため、2度の試行調査を経て、現在の理想となる出題形式となったのだと推察できる。

出題内容は、第1問から順に、「世界の自然環境」、「産業」、「都市と人口」、「アメリカ合衆国の地誌」、「地域調査」であった。また詳しくは触れないが、第2日程の出題内容は、「世界の自然環境と災害」、

「産業と貿易」, 「人口と村落・都市」, 「西アジア地誌」, 「地域調査」であった。2016年度センター試験以降の定番であった「比較地誌」の出題がなくなったとはいえ、2016年度センター試験地理Bから続く出題内容に大きな変更点はなかった。

またセンター試験と比較すると、より「思考力・判断力・表現力」を判定することに重点において作問したことがうかがえる。しかし、思考力というよりは、基本的な読解力を必要とする問題が多い印象を持つ。第1問の間2などは典型例である。「地点DとEはどちらも沿岸にあり」、「地点Eは地点Dからほぼ真南に約800km離れている」、「両地点で現れる時期がほぼ同じ」、「降水量が多い時期の雨は、主に(サ)という気圧帯の影響を強く受けている」など、直接的に知識を問うのではなく、異なる用語で遠回しに表現するなど、「出題者が何を言わんとするのか?」を探ることが強く求められる性格の設問が目立った。示されたリード文から、「地点DとEが①同じ半球に位置するが、②地点Eの方が低緯度に位置し、③どちらも気温の年較差が小さい」という3点を導き出したうえで、これらを材料にして設問を解くことが要求されている。こうした背景から、難易度は高まったというより、試験そのものの性格が変わったと考えるべきである。

■ 問題数の比較

	実施年月	大問数	小問数
共通テスト試行調査(第1回)	2017年11月	5	30
共通テスト試行調査(第2回)	2018年11月	5	32
センター試験(2020年本試)	2020年1月	6	35
共通テスト(2021年本試第1日程)	2021年1月	5	32

③ 大問ごとの分析

以下、大問ごとの分析である。

■ 第1問

「世界の自然環境」が出題された。自然地理を苦手とする受験生の多くが、自然現象の原理・原則を理解していない場合が多い。

問1や問2にある気候要素と気候因子の違いは理解しておかなければならない基礎知識である。「気候要素」は気候を構成する気温や降水量、風などのことであり、「気候因子」は気候要素を変化させる地理的要因である。また自然地理が理解できていないと、人文地理分野の理解も進まないことから、自然地理学習は大変重要な分野といえる。問3は「“災害に対する弱さ”に対応する」とあるため、人為的要因についての内容だと分かり、やはり読解力が要求されている。問4はプレートの変動帯の場所は基礎知識であり、氷河が分布する山は標高と気温の遞減から推察ができる。問5は写真から情報を読み取ることが要求される問題だが、写真は不要な情報も写り込んでいるので、本問は「生徒たちの発言」から判断する。基礎知識があれば判断は容易である。問6は図から判断することができるため、問われてい

る内容について、丁寧に資料から読み解くことが大切である。

■ 第2問

問1は、近年のロシアの小麦生産量・輸出量が増加傾向にあることを知っていれば容易な問題である。これも基礎知識が問われた問題。しかし、ア～ウの文章の判定が難しかった。「生産活動の自由化が進められ」とあるため、ソビエト連邦の崩壊によって、それまでの農業活動のあり方が変わったロシアと考えるなど、説明文が何を言わんとしているのかを読み取る必要がある。問2は、人口増加や経済発展にともなって、魚介類の需要が高まっていることを背景に、養殖業における生産量の増加がみられることに注目する。近年、ベトナムやインドネシア、インドではエビの養殖が盛んに行われており、養殖池の用地確保のためのマングローブ林の伐採が問題視されている。問3は与えられた条件に基づいて計算すれば容易に解答できる。問4は、高鮮度保持を目的とした輸送(冷蔵や冷凍)は、原料を輸送する際なのか、製品を輸送する際なのかに注目する必要がある。問5は、アメリカ合衆国の判定は容易だが、中国(国)とASEAN(地域)との比較は難しいだろう。問6のような問題はセンター試験時代にもあり、迅速に情報を処理しなければならない。途中から混乱してしまいがちな問題であるため、ひとつひとつ可能性のある答えを検証して解答を導く。

■ 第3問

問1は海岸線や山地、河川などの存在を考慮して考える。問2は、韓国とオーストラリアの判定が難しく、韓国は日本以上に合計特殊出生率が低いために少子化が進展しているという知識が必要となる。問3は在外インド人に関する知識が問われている。在外インド人は、独立前と独立後で性格が異なることに留意しておく。独立前はイギリス植民地に強制連行された農業従事者が多く、現在はその子孫が多く生活している。独立後は自主的に移住した人が多く、英語圏にてIT技術者など知的労働に従事する者、中東地域の産油国や東南アジア諸国にて建設業やサービス業に就く者などに区分される。問4は、都心部と郊外の人口移動についての基礎知識が問われた問題。問5は大都市圏、農村部、観光地で区分されており、その様子がイメージできれば解答は容易であろう。問6は、台湾の台北市内の交通網の様子であるが、グラフから容易に判断できるだろう。

■ 第4問

1か国の地誌が出題されるのは珍しいが、過去にもカナダや中国、ロシアなどが出題されている。国土面積の大きな国は情報量が多いこともあり、出題しやすいと考えられる。

問1は、1970年代のアメリカ合衆国における「産業構造の変化」についての基礎知識が問われている。1970年代は、2度のオイルショックや、日本や西ドイツ(当時)の戦後復興、強い労働組合の存在などによって、北部地域の重工業地帯が国際競争力を失っていった。そのため安価な労働力や土地が得られ、また、省エネを実現できる温暖な南部地域へと産業の集積がみられた。問2はアメリカ合衆国における農業地域と工業地域の分布から推察する。問3は大陸西岸と内陸部との違いが問われているのであって、特定の都市のハイサーグラフを知っておく必要はない。問4・5は、アメリカ地誌の基礎知識が必要となる。問6はやや時事的な問題のように見えるが、単純なグラフの読み取り問題である。

■ 第5問

地域調査に関する問題は、その多くが図やグラフ、写真、表の読み取り問題であり、あまり地理の基礎知識を必要としない。まさしく読解力が問われており、問1～3、6が典型問題である。問4で季節風の特徴について問われているが、問5と同様、与えられた文章から答えを導くのは容易といえる。

④ 共通テストの対策

初めて実施された共通テストから分かることは、これまで以上に読解力を要するという点である。「思考力」というよりは、「出題者の意図をくみ取ること」がより求められるテストであった。「出題者の意図」をくみ取るには、基礎知識が必要となる。ここでいう基礎知識とは、決して容易という意味ではなく、「次の事象を理解するための知識」である。例えば、「沿岸部は、内陸部に比べて気温の年較差が小さい」という事象を理解するためには、比熱についての仕組みを理解しておく必要がある。こうした基礎知識の集積を図ることで、出題者の意図をくみ取ることができるようになるのではないかと。文部科学省が意図するような「思考力」とは、「(やみくもに)考える」ということではなく、「基礎知識を使って、出題者の意図を読み解き、正答に至ること」だと理解すべきだろう。つまり、基礎知識の集積を徹底することが重要といえる。また演習量を増やすことも必要である。いくら「出題者の意図をくみ取れ」といわれても、「リード文に何が書いてあるのか？」を理解できなければ意味がないため、問題演習を通じて得点力を高めることが重要となる。基礎知識の集積を図ることで学力を高め、演習量を増やすことで得点力を高めたい。

本分析資料のほか、他教科・他科目の分析資料(PDF)もダウンロードできます。



 **第一学習社**

広島本社

733-8521 広島市西区横川新町 7-14

TEL 082-234-6800